

日系パラグアイ人ら甘楽視察 農業振興、母国の参考に



自然塾寺子屋のスタッフ(右)から説明を受ける視察団のメンバーら

国際協力機構(JICA)の日系人研修プログラムで来日中のパラグアイ視察団が20日、甘楽町を訪れ、道の駅甘楽やこんにやくパーク、国指定名勝の楽山園を見学した。27日まで日本に滞在し、県内各地の道の駅や観光施設を巡り、農業振興などのアイデアを自国に持ち帰る。

訪れたのは同国で農業や観光振興に取り組む30〜40代の日系人ら6人。同駅の飯塚信一所長(44)に農作物の集荷方法や管理システム、出品農家への手数料などを熱心に質問した。

祖父がみななかみ町出身で、ラ・コルメナ市で農業に従事する林和典さん(34)は「祖父の故郷で学び、経

営拡大の可能性を探りたい」と意欲を見せた。イグアス市で観光振興に取り組んでいるリス・カワノさん(42)は「見るもの全てが勉強になる」と話した。

一行は8日に来日。横浜市での座学などを経て19日に同町に到着し、富岡市内の富岡製糸場や養蚕農家などを訪れた。21日以降はみななかみ町や川場村の道の駅、沼田市の観光農園などを視察する。

研修は、日系社会への情報提供を通して中南米地域の発展を後押しするプログラム。国際交流に取り組むNPO法人自然塾寺子屋(甘楽町)がJICAの委託を受け、研修全体の管理を担っている。(細井啓三)